

重点取組分野	令和 4 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きて働く知	①課題解決学習を通して、目的意識をもって学習内容を習得し、適切にアウトプットしつづける能力を高めていく。教科領域を可能な限りリンクさせていき、学びに深みを持たせる。 ②学力層CD層が多い実態に合わせ、低学年においてMIMを通して、中学年は国語辞典を活用して確実に言語能力を高めていく。家庭学習や音読などの習慣も継続してつづけていく。	①課題解決をしたことを積極的にアウトプットする場面を作ってきた。児童が意欲的に学習できるよう各教科の教材研究をしっかりとっていく必要があった。 ②子どもの実態に合わせ、国語の「話す聞く」「書く」の学習内容を基本としながら、他の教科に関連付け計画的に取り組んでいく必要があると考える。MIMを取り入れてきたが学習意欲を高められるように工夫する必要がある。	B
豊かな心	①たてわり活動を充実させ交流を深める。4年目の活動として、それぞれの学年で目指すべき目標に近付けるスキルを定着させていく。 ②公開授業をする道徳を中心に、学年で教材研究に取り組み、さらなる子どもの変容を教育活動全体で見とって、豊かな心を育んでいく。	①たてわり活動を充実させ、交流を深めた。それぞれの学年で目指すべき目標に近づけるようになってきた。さらに交流を深め、よりよい人間関係づくりができていくようにしていく。 ②学年で教材研究に取り組み、子どもの変容を見取っていくことができた。教育活動全体から、子どもたちの豊かな心を機会を捉えて育む努力をした。	A
健やかな体	①児童会活動を中心にあいさつ運動に取り組む、あいさつを返す習慣をさらに定着させる。あいさつカードを継続していく。 ②長縄フェスティバルや体力アップなど、児童主体の取組を計画的に実施して体力の向上に努める。	①教師から範を示して挨拶をするようにした。あいさつカードの効果があった。 ②体力アップは定着していると思う。自分は子どもと一緒に参加しているが、教員の意識に差がある。年度初めに、全校に対して話をしたり、説明をする時間が、必要だと考える。	B
地域連携 学校運営協議会	①PTAが区P市Pから脱退し、純粋ボランティア団体へと回帰したことを契機に、2つの連合町内会と連携を深め、日常的に地域の方が学校に行き来する関係づくりを構築する。その型を今年度創る。 ②持続可能な学業連活動、小中一体型の学校運営協議会を立ち上げる。協議会では、地域連携を中心軸として検討をしていく。	①小中一体型として一年間協議会を運営できた。一体型にふさわしい会員となるように協議した。拠点防災訓練に児童生徒が参加できるシステムを構築していくことを今後のテーマとして確認した。②地域町内会の祭りなどが復活していくことを受け、より連携した取り組みをしていけるとよい。	A
いじめへの対応	①学年研で児童の共通理解に時間をとったり、児童指導委員会や職員会議で児童や事案の共通理解を図ったりすることを重視し、多くの目で児童の育ちを見守ることにつなげていく。 ②いじめ防止対策委員会を中心に、ケース会議を開きいじめの未然防止、早期発見・対応を組織的に行う。	①学年研、児童指導委員会、職員会議等で児童についてや起きた事案についての共通理解を図ることができた。 ②いじめ防止対策委員会を中心に、ケース会議を開き未然防止、早期発見・対応を行った。さらに組織的な対応ができるように改善が必要である。	B
人材育成・ 組織運営(働き方)	①次のステージで活躍しつづける視野を広げるよう、校内分掌配置を行う。メンターによる教育実習生指導、エントリー制による役割分担など、学年研の充実を図り、教材研究を共同で行う。教科担任制を年間通して行い、教材研究の充実を図る。 ②迅速な検討による、次年度をまたないPDCAシステムを構築し、より働きやすい職場づくりを進めていく。	①②働き方改革を進めたことで、学年研や教材研究の時間に少し余裕がもてるようになった。教科担任制は、高学年を中心に行った。今後は、ブロック単位での担任制も検討していく。	A
a22			
a12			
a23			
a13			
a24			
a14			
a25			
a15			
ブロック内 評価後の 気付き	新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、南瀬谷中ブロックで全教科における授業参観を通じた研究を行った。また、参観した授業をもとに気づいたことを紙面形式ではあったがまとめたことで、情報交換や共有を行うことができた。昨年度より『誰一人取り残さない指導』を視点として2校で共通して取り組むことになっている。部活見学や部活体験は予定通り実施できたが、合唱祭や授業交流などは見送った。来年度は、あらゆる活動に制限がなくなるので、より充実したものにしていく。		ブロック内 評価後の 気付き
学校関係者 評価	①朝食を80%以上の子が摂っていることは嬉しい。数%食べていない子のために捕食などを用意していることが素晴らしい。②コロナ前は、読み聞かせボランティアなどをしていたが、高学年も目を輝かせて聞いてくれた。是非また復活させたい。③PTAがなくなりボランティアとなったことで、保護者の窓口がなくなる心配がある。活動をこまめにインスタなどで発信していくことで、つながりが途切れないようにしたい。手を挙げないが力のある保護者が参加するような仕組みを考えてほしい。		学校関係者 評価
中期取組 目標 振り返り	昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止の対策を行いながらも、まちと関わり、自分たちの目標に向かって活動していくことができた。子どもたちも教員も「働き方を見直しながら」ということを常に意識しながら活動を行ってきた。新型コロナがある状況とうまく付き合っているが、今後も子どもたちの学びを深めていく取り組みを模索していく。		中期取組 目標 振り返り

重点取組分野	令和 5 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きて働く知	①誰もが安心して豊かに学べる授業づくりを目指す。学年研で研究する中で、課題を自分で選んだり決めたりするなどの、自己選択・自己決定を重視する。学力層CD層の多い実態を正面から捉え、「分かる」「できそうだ」を大事にした、個々人の学力の「伸び」に着目した授業展開を積み重ねていく。②特別支援教育の視点から、児童が何に困っているか、教師の見立てる力を育成し、子どものお困りに寄り添った実践を学校全体に広げていくようにする。		
豊かな心	①たてわり活動を充実させ交流を深める。5年目に入り、本校の特色ある活動として、それぞれの学年で目指すべき目標に近付けるスキルを定着させていく。高学年のロールモデルとしての活躍が目覚ましいので、丁寧に継続していく。 ②誰もが自分が受け入れられていくと実感できる、共感的な人間関係を、授業を含めた学校生活全般で醸成する。		
健やかな体	①児童会活動を中心にあいさつ運動に取り組む、あいさつを返す習慣をさらに定着させる。登校班から自主登校に切り替わることもあり、あいさつできる児童の育成を重視する。 ②長縄フェスティバルや体力アップなど、児童主体の取組を計画的に実施して体力の向上に努める。		
地域連携 学校運営協議会	①南瀬谷小ボランティアによる活動が2年目を迎える。地域にも発信する中で、保護者、地域の方が当たり前のように来校し、学習生活の支援をすることができるように取り組んでいく。 ②小中合同学校運営協議会2年目に入る。拠点防災訓練に児童が参加できるよう、地域連携を深めていく。		
いじめへの対応	①いじめ防止対策委員会では、事案の共有だけではなく、対応の在り方について委員会として検討し実践する。人間関係に難しさを抱えている児童への配慮を重視する。 ②事案対応に迅速かつ組織的な対応を徹底する。聞き取り、連絡分担などをスムーズに行う。		
人材育成・ 組織運営(働き方)	①数年前を意識するような校内組織配置を行う。メンターによる教育実習生指導を行う。学年研の充実を図り、教材研究を共同で行う。教科担任制を年間通して行い、教材研究の充実を図る。 ②迅速な検討による、次年度をまたないPDCAシステムを構築し、より働きやすい職場づくりを進めていく。		
b7			
a12			
b8			
a13			
b9			
a14			
b10			
a15			
ブロック内 評価後の 気付き	新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、南瀬谷中ブロックで全教科における授業参観を通じた研究を行った。また、参観した授業をもとに気づいたことを紙面形式ではあったがまとめたことで、情報交換や共有を行うことができた。昨年度より『誰一人取り残さない指導』を視点として2校で共通して取り組むことになっている。部活見学や部活体験は予定通り実施できたが、合唱祭や授業交流などは見送った。来年度は、あらゆる活動に制限がなくなるので、より充実したものにしていく。		ブロック内 評価後の 気付き
学校関係者 評価	①朝食を80%以上の子が摂っていることは嬉しい。数%食べていない子のために捕食などを用意していることが素晴らしい。②コロナ前は、読み聞かせボランティアなどをしていたが、高学年も目を輝かせて聞いてくれた。是非また復活させたい。③PTAがなくなりボランティアとなったことで、保護者の窓口がなくなる心配がある。活動をこまめにインスタなどで発信していくことで、つながりが途切れないようにしたい。手を挙げないが力のある保護者が参加するような仕組みを考えてほしい。		学校関係者 評価
中期取組 目標 振り返り	昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止の対策を行いながらも、まちと関わり、自分たちの目標に向かって活動していくことができた。子どもたちも教員も「働き方を見直しながら」ということを常に意識しながら活動を行ってきた。新型コロナがある状況とうまく付き合っているが、今後も子どもたちの学びを深めていく取り組みを模索していく。		中期取組 目標 振り返り

重点取組分野	令和 6 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きて働く知	c1		
豊かな心	c2		
健やかな体	c3		
地域連携 学校運営協議会	c4		
いじめへの対応	c5		
人材育成・ 組織運営(働き方)	c6		
a22	c7		
a12	a12		
a23	c8		
a13	a13		
a24	c9		
a14	a14		
a25	c10		
a15	a15		
ブロック内 評価後の 気付き	新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、南瀬谷中ブロックで全教科における授業参観を通じた研究を行った。また、参観した授業をもとに気づいたことを紙面形式ではあったがまとめたことで、情報交換や共有を行うことができた。昨年度より『誰一人取り残さない指導』を視点として2校で共通して取り組むことになっている。部活見学や部活体験は予定通り実施できたが、合唱祭や授業交流などは見送った。来年度は、あらゆる活動に制限がなくなるので、より充実したものにしていく。		ブロック内 評価後の 気付き
学校関係者 評価	①朝食を80%以上の子が摂っていることは嬉しい。数%食べていない子のために捕食などを用意していることが素晴らしい。②コロナ前は、読み聞かせボランティアなどをしていたが、高学年も目を輝かせて聞いてくれた。是非また復活させたい。③PTAがなくなりボランティアとなったことで、保護者の窓口がなくなる心配がある。活動をこまめにインスタなどで発信していくことで、つながりが途切れないようにしたい。手を挙げないが力のある保護者が参加するような仕組みを考えてほしい。		学校関係者 評価
中期取組 目標 振り返り	昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止の対策を行いながらも、まちと関わり、自分たちの目標に向かって活動していくことができた。子どもたちも教員も「働き方を見直しながら」ということを常に意識しながら活動を行ってきた。新型コロナがある状況とうまく付き合っているが、今後も子どもたちの学びを深めていく取り組みを模索していく。		中期取組 目標 振り返り